



ISBN4-8106-0283-4

C3051 ¥2400E

(社)土木学会 定価(本体2400円+税)

土木史/土木遺産

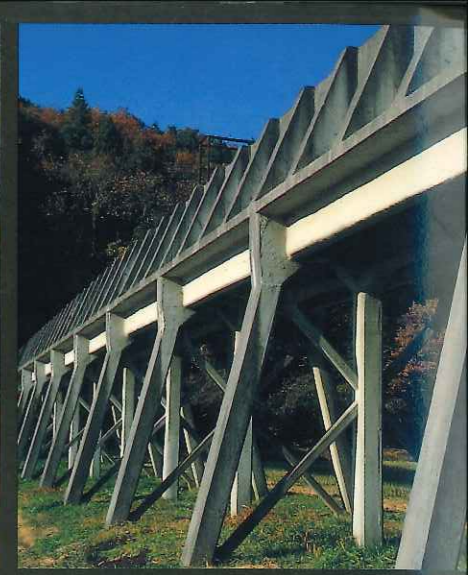
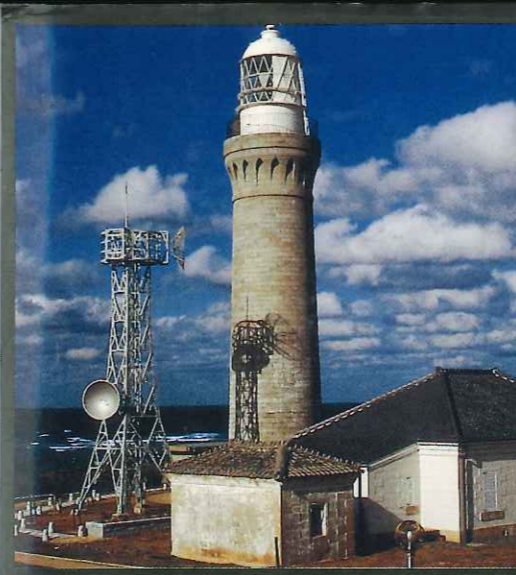


9784810602838



1923051024001

日本の近代土木遺産

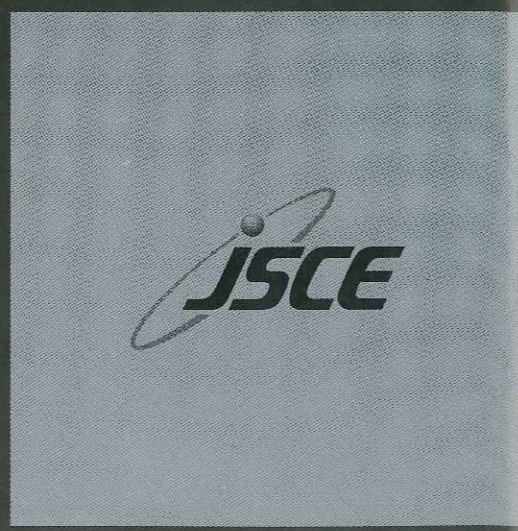
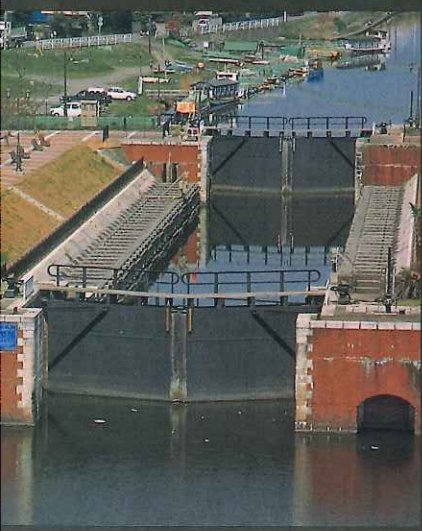
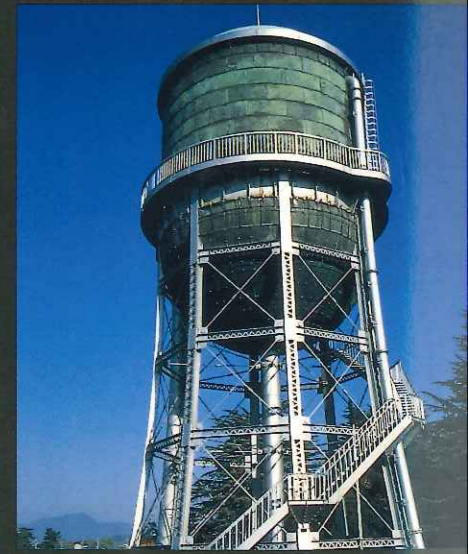
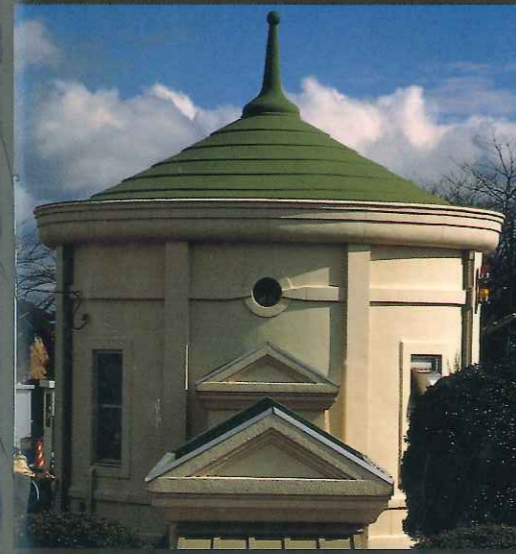
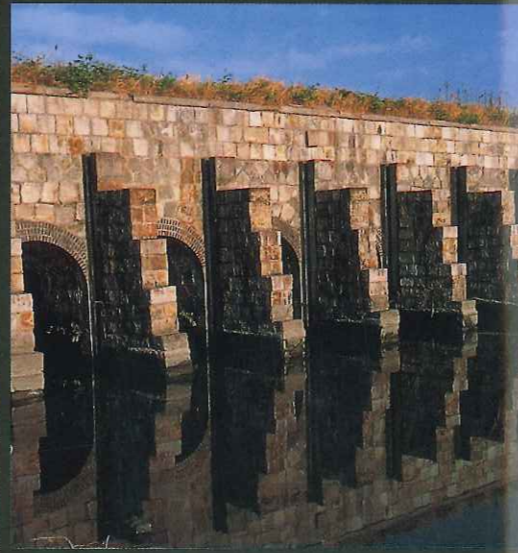


日本の近代土木遺産

現存する重要な土木構造物2000選

Civil Engineering Heritage in Japan

Important 2000 Structures as Monument of the Modernized Japan 1865-1945



土木学会

●発電所・水道ポンプ室・駅舎等の建屋については、躯体構造と屋根の形を記載する。その際、木、石、煉瓦が剥き出しになっていなければ誤解はまずないが(鉄骨煉瓦壁、RC石張のような例外もある)、表面がコンクリート様のもは余程注意しなくてはならない。木モルタル、石モルタル、煉瓦モルタルはまだしも、煉瓦建屋でありながらクレーン梁はRC製、臥梁・壁もRCで被覆されていて「設計図を見るまでRC発電所とされていた」ものすらあり、判定は難しい。本書では、ごく初期のRC発電所については設計図に基づいて確認するよう努めた。

●複数、もしくは、群として扱われた施設で「形式」が異なる場合は、“( )”内に施設名を略記した後で、個別のデータを記載する。

## ⑥諸元

●技術評価に必要な最低限の数値を記載する。

●橋の場合、橋長(“長”)、最大支間長(“S”)に加えて“( )”内にスパン割(径間数)を示す。支間長でなく径間長が示されていることもある。スパン割の表示に使われている記号の中で、“G”は桁とラーメン、“T”はトラス、“A”はアーチ、“S”は吊構造を意味する。また、主径間がトラスで側径間に桁が使われているような場合は、トラスを“T”、桁を“g”のように、大文字(主)と小文字(側)を使い分けることで表現する。移設橋等で径間によって構造・完成年等が異なる場合は、“( )”内に“(1-3)”のように該当する径間を明記する。

●拱渠の場合には、支間長(“S”)と径間数しか判っていないことが多い。

●道路トンネルでは、全長(“長”)と幅員(“幅”)を示す(単線の鉄道トンネルでは全長のみ)。幅員は場合により有効幅員となっていることがある。

●ダムでは、堤高(“高”)と堤頂長(“長”)を示す。ゲートがある場合はゲート数を“(…門)”と記載する。

●水門では、全幅もしくは扉幅(ゲートの幅)とゲート数を記載する。しかし水門の場合、台帳すらなく、ゲート数しか記載できないことが多い。

●閘門では、有効長と閘室幅を原則とするが、それぞれの測り方は管理者によって一定していない。

●灯台・配水塔では高さが主な情報であるが、基壇や避雷針を加えるか否かは個々のケースで相違があり、統一は図られていない。

●複数、もしくは、群として扱った施設で「諸元」が異なる場合は、“( )”内に施設名を略記した後で、個別のデータを記載する。

## ⑦完成年

●竣工年を和暦で示す。明治45年と大正1年、大正15年と昭和1年の違いには配慮したつもりだが、確認できなかったものもある。

●輸入橋梁等で製作年が判明している場合には、竣工年ではなく製作年を示す。その際は、年の後に“製”と追記する。

●トンネル等で個々の竣工年が不明な場合は、路線の開通年を示す。その際は、年の後に“開通”と追記する。

●現存建造物の一世代前の建造物(現存しない)の竣工年を示すことに必然性がある場合には、「⑦完成年」欄の最初に“( )→”の形で記載する。

●建造物が完成した後で大規模な改修が加えられたような場合は、“→”印の後に年と変更内容を簡単に示す。

●複数、もしくは、群として扱った施設で「完成年」が異なる場合は、年の後に“( )”付きで施設名を略記する。

## ⑧文化財等

●文化庁、都道府県・市町村の教育委員会が指定する文化財に加え、土木学会、産業考古学会、海上保安庁灯台部、旧国鉄等の定める重要遺産などに該当するものは、その内容を示す。

●文化財関連の表示は、建造物課の国指定重要文化財を“国指定”、登録有形文化財を“国登録”と記す。記念物課の国指定史跡を“国史跡”と記す。また、都道府県管轄のものは“県指定”、区市町村管轄“市指定”のように記す。

●土木学会関連では、平成12年からスタートした土木学会選奨土木遺産を“選奨土木遺産”と記す。

●産業考古学会関連では、昭和60年からスタートした産業考古学会推薦産業遺産を“推薦産業遺産”と記す。

●海上保安庁灯台部が明治期の灯台について与えた評価ランク(A~D)を“燈A~燈D”と記す。また、ハンブルクの国際航路標識会議で採択された世界の灯台100選(国内5基)を“世界灯台百選”と記す。

●その他、鉄道記念物、日本の道百選、市の都市景観重要工作物などについても判っているものを記すが、網羅性には欠ける。

## ⑨ランク

●A~Cの3ランクに分けて表示する。

●ランクは、後述の『評価基準』に準じて、下記の「⑩評価情報」を参考に決める。

●Aランクは最も重要な土木遺産で、国指定重要文化財に相当する。

●Bランクはそれに次ぐ重要な土木遺産で、都道府県指定の文化財に相当する。

●CランクはA・Bランク外の重要な土木遺産で、国の登録有形文化財や区市町村指定の文化財に相当する。

●ランクは確定的なものではなく、一応の目安として考えていただきたい。AランクとCランクの差は明らかであるが、AとB、BとCのように隣接したランク同士では差は僅かである。

●「名称」欄で複数、あるいは、群として扱ったものは、総体としての評価が記されている。従って、個々の施設の評価はここに示すランクより下回ることもあり得る。詳しくは、『構造種別リスト』のランク欄を参照されたい。

## ⑩評価情報

●施設的设计・製作に関わる情報と、価値判断に関わる情報を簡潔に記載する。

●コメントが複数ある場合は、仕切りに“/”を挿入する。

●記載内容は、次の「⑪出典」からの直接引用、『構造種別リスト』に基づいた客観的な判定、外見の記述、設計者情報、来歴など様々な要素から構成されている。引用の場合も、最終的には馬場の判断で記載内容を決定したので、その責任は馬場にある。間違いがあれば、是非ともご指摘いただきたい。

## ⑪出典

●データ・ソースと(単なる)参考文献の双方を示す。両者は表現上特に区別しない。データ・ソースだけでなく参考文献も示すことにしたのは、写真などの追加情報を調べるのに役立てばと思ったからである(必ずしもすべての参考文献を網羅しているわけではない)。

●“★”と“☆”は、土木学会の近代土木遺産調査小委員会のデータ、ならびに、中部5県調査のデータである。“★”は、それらのデータが本書のデータ・ソースとなったことを、“☆”はならなかったことを表している(後者は、写真や諸元などの判断材料が欠落していた場合に多い)。

●出典が複数ある場合は、区切りに“/”を挿入する。

●巻、ナンバー、ページ等がわかっている場合は、参考文献の略記号の後に示す。

●参考文献の略記号については、後述の『データの出典先解題』を参照されたい。

●ナンバー“n”は、土木遺産を1~100のようにナンバー付きで紹介しているような場合に用いられる。

●ページ“p”には、記述のあるページ(複数ページの場合は最初のページ)を示す。

●文化庁の近代化遺産調査の報告書から採択したデータは、“道府県名+p”と表記する。

●各県の土木部等が主体となってまとめた歴史的建造物データは、“道府県+土木+p”、“道府県+橋+p”のように表記する。

●土木学会の歴史的鋼橋調査小委員会のデータは、“歴鋼集覧+コード”と表記する。

●『土木史研究』からの出典は、“土史+巻数+p”の形で示す。

(旧)天城隧道	あまぎ	(賀茂)河津町 (田方)天城湯ヶ島町	一般道<国道414号>	石トンネル(石ポータル)
谷津漁港 第二防波堤 / (旧)波来突堤	やつ・はらい	(賀茂)河津町	下河津漁港・谷津地区	石防波堤
藤三弘防波堤	どうさんばらい	(賀茂)東伊豆町	稲取漁港	石防波堤(空積)
(元)稲取灯台	いなとり	(賀茂)東伊豆町	<鈴木常右衛門の私設灯台(稲取漁港)>	石灯台(六角形)
(旧)彌陀山隧道	みださん	(賀茂)南伊豆町	一般道<国道136号>	煉瓦トンネル(石ポータル)
入間防風壁	いるま	(賀茂)南伊豆町	集落の防風	衝立状防風壁
石廊崎灯台	いろうさき	(賀茂)南伊豆町	下田保安部灯台課	RC灯台(円形)
(旧)宇津之谷隧道(明治トンネル)	うつのや	(志太)岡部町 静岡市	【静岡市を参照】	【同左】
木和田川(砂防)堰堤群	きわたがわ	(志太)岡部町	木和田川体験ゾーン(木和田川)	巨石空積堰堤(8基)
秋葉橋	あきば	(周智)春野町	県道・鮎釣〜東雲名〜春野線<県道・二俣〜犬居線>/気田川	鋼プラットトラス(ボニー平行弦, 中略, 煉瓦張C橋脚)
三之瀬橋	さんのせ	(周智)森町	県道・袋井〜春野線/大府川	RC充腹アーチ
森村橋	もりむら	(駿東)小山町	富士紡績・小山工場への入口<小山駅〜工場間のトロッキ軌道>/鮎沢川	鋼プラットトラス(曲弦, ピン結合, 下路)
須川発電所 取水堰堤	すかわ	(駿東)小山町	東京電力<富士紡績>/須川	練積C堰堤(全面溢流式, 越流部=直線)
生土発電所	いきど	(駿東)小山町	東京電力<富士電力>/鮎沢川	RC建屋(ろく屋根)
(廃)柿田眼鏡橋	かきた	(駿東)清水町	廃道/柿田川	石アーチ
千貫樋	せんがん	(駿東)清水町	小浜用水	RCラーメン
(旧)天城隧道	あまぎ	(田方)天城湯ヶ島町 (賀茂)河津町	【(賀茂)河津町を参照】	【同左】
桑原川橋梁	くわはらがわ	(田方)函南町	JR東海道本線/来光川	無筋C拱梁(石ポータル)
御幸橋	みゆき	(田方)修善寺町	一般道/修善寺川	RC開腹アーチ(リブ+柱)
梅木発電所 煉瓦水路橋	うめき	(田方)中伊豆町	東京電力<駿豆電気鉄道>	煉瓦アーチ
御前崎灯台	おまえさき	(榛原)御前崎町	静岡航路標識事務所	煉瓦灯台(円形, 基壇: 伊豆石)
御前崎灯台(旧)吏員退息所	おまえさき	(榛原)御前崎町	静岡航路標識事務所	煉瓦(漆喰壁)建屋(寄棟屋根, 基壇: 伊豆石)
大井川橋	おおいがわ	(榛原)金谷町 島田市	【島田市を参照】	【同左】
大井川橋梁(下り線)	おおいがわ	(榛原)金谷町 島田市	【島田市を参照】	【同左】
大井川第一橋梁	おおいがわ	(榛原)川根町	大井川鉄道/大井川	鋼PG(上路, 曲線)
久野脇橋	くのわき	(榛原)中川根町	人道/大井川	吊(無補剛木棧)
長尾川・中津川水路橋(久野脇発電所)	ながおがわ・なかつがわ(くのわき)	(榛原)中川根町	中部電力<日本発送電>久野脇発電所/長尾川, 中津川	RC充腹アーチ(長尾川は橋脚部にアーチ型開口部)
(旧)地名発電所	じな	(榛原)中川根町	工務店作業所<東海紙料・島田工場>	煉瓦建屋(切妻屋根)
(廃)本間用水 隧道(入口)	ほんま	(榛原)榛原町	<本間賢三>	(石ポータル)
大井川ダム吊橋	おおいがわ	(榛原)中川根町	ダム専用道<建設用鉄道>/大井川	吊(鋼トラス補剛)
千頭ダム(湯山発電所)	せんず(ゆやま)	(榛原)本川根町	中部電力<第二富士電力>/寸又川	C重力式ダム(テンターゲート)
大井川ダム(大井川発電所)	おおいがわ	(榛原)本川根町	中部電力<大井川電力>/大井川	C重力式ダム(ローリングゲート)

長445.4m, 幅4.2m	明治37→昭和45旧道	国登録	A	明治期最長の道路用石トンネル/坑口・坑内とも総切石積のトンネルは珍しい(愛知の伊世賀美隧道と並ぶ)/笠石・帯石が入るだけだが, 総石造からくる重厚さは圧倒的	★/静岡p194/静岡土木p20/見方土木p32・168
長58.5m, 高6.4m	明治30頃		B	規模はそれほど大きくないが巻石が美しい	静岡p130/静岡土木p57
長90.7m, 高4.5~4.8m	明治10		B	明治初期の保存状態の非常に良い石防波堤/鈴木藤吉による個人造(「藤さん」から来た名)→漁協による拡張	★/静岡p129/静岡土木p18
高3.3m	明治42→昭和20廃止→昭和60復元	町指定	C	石油ランプマントル装置付の光源/波状の屋根, とっくり状の石積基壇/地元漁民の自力建設/日本最初の女性灯台守(荻原すげ)	★/静岡p229/静岡土木p19
長69.2m, 幅4.6m	大正12		C	県東部で唯一の煉瓦トンネル/端正な煉瓦ポータル=総切石積でアーチ環のみ煉瓦を見せる	★/静岡p198/静岡土木p21
長115m, 高2.4~5.5m	大正13		B	防風壁としては規模が大きい	静岡土木p58
高11.38m	(明治4木造)→昭和8暴風に倒壊・復旧		C	観光灯台	★/静岡土木p22/灯台50選p46/灯台風土記p66
【同左】	【同左】	【同左】	B	【静岡市を参照】	【同左】
(第二)高5.14m, 長17.8m	明治44~大正3		C	蕨の細道沿い(砂防学習ゾーンとして整備)	★/静岡p236/静岡土木p85
長93.7m, S30.2m(3T)	大正15		B	中路がニートラスは稀/迫して補強されたアーチ状開口部をもつ優雅な橋脚	★/歴鋼集覧T8-014/静岡土木p121/見方土木p52
長13.7m(A)	昭和8		B	親柱・高欄: 尖頭アーチを基調とした表現派風のデザイン=これほど本格的なものは稀	★/静岡p199/静岡土木p148/見方土木p51
長約40m, S39.0m(T)	明治39製→道路化		A	設計: 秋元繁松, 製作: 東京石川島造船所/斜材取付け部を補強/橋門構角部に唐草模様/会社の創立に貢献した森村市左衛門から命名	★/歴鋼集覧T3-021/土史11p131/静岡p197/静岡土木p43/橋百選n34/見方土木p53
高11.43m, 長44.84m	大正1		B	高さ10mを超える保存状態の良い練積坊主堰堤	★/静岡土木p44
最大6200kW	昭和5		C	壁面のピラスター列: 簡略化された柱頭をもつオーダー=ユニークな造形	★/静岡土木p44/見方土木p64
長54m, S3.45m(5A)	明治42→昭和6廃止		C	流水を塞ぐ石アーチの廃墟が残るのは珍しい	★
長42.7m, 高4.2m	大正13		B	農業用水用のRCラーメン高架橋=珍しい/関東大地震で崩壊後にRC化	★/静岡土木p41/水利n100
【同左】	【同左】	【同左】	A	【(賀茂)河津町を参照】	【同左】
長22.56m, S6.1m(3A)	大正14		C	最晩期の鉄道用拱梁/重々しい総石張	★/小野田p423/静岡p211/静岡土木p35
長22.8m, S22.8m(A)	大正13		C	県下で最古のRCアーチ/開腹部がアーケード状=目立ちすぎてバランスを崩す/温泉街の中心	★/静岡土木p33
長45.50m, S7.27m(6A), 高7.27m	明治44		A	最も壮麗な水路用煉瓦アーチ=スパンごとのピラスター, 笠石・帯石に相当するバンドが「トンネル坑口が連続している」ような印象を与える	★/静岡p138/静岡土木p12
高22.5m	明治7→昭和24戦災修復→昭和58補強	燈A	A	設計: プラントン/明治初期の灯台/踊り場直下の流麗な曲面/白漆喰はオリジナルではない?(当初は煉瓦目地?)	★/静岡p230/静岡土木p92/日本灯台p14・37/灯台50選p50/灯台風土記p74
【同左】	【同左】	【同左】	B	設計: プラントン/ペランダ・コロニアル・タイプ	静岡p230
【同左】	【同左】	【同左】	A	【島田市を参照】	【同左】
【同左】	【同左】	【同左】	A	【島田市を参照】	【同左】
長275.03m, S22.25m(12G)	昭和5		C	多径間の鉄道用鋼PG	静岡p218/静岡土木p94
長220m(S)	昭和7		B	戦前の吊橋の最大スパン(補剛トラス付きでは奈良の折立橋のS156mが最長=現存せず)/通行が数人に制限/3連アーチ開口部をもつ主塔	★/静岡土木p102
(長尾川)長71.5m, S12.0m(3A), (中津川)長69m(3A)	昭和19		C	水路側壁にブラインド・アーチ=重量感を減らすための工夫?	★/静岡p141/静岡土木p95
最大2400kW	明治43→昭和35廃止	町指定	C	明治期の煉瓦発電所(非現役)/外壁を煉瓦と木の2重構造(空気層を設ける)/円窓とアーチ窓の煉瓦積に特徴(楔石と窓枠)	★/静岡p153
長320m, 幅1m	明治9	町指定	C	巨大な切石をハの字形に配した坑口/本間賢三の私財を投げ打っての超人的な努力の成果	★/静岡土木p90
長107m(S)	昭和11→車道用		C	力強いトラス骨組の主塔/補剛トラス: 変形ワーレントラス	★
高64.0m, 長178m(4門)	昭和10		C	戦前で8番目に高いダム	☆
高33.5m, 長66m(3門)	昭和11		C	嵩上げでローリングゲートが涙滴型に	★